

No.2404 雪彦山

2014年3月9日(日) 晴れ

参加者：堀亀(L) 鳴原 片山琴美 高石 櫻井 宮本 山城 中島 大西 中橋(記)

数日來の寒波も少し緩んだ晴天の下、堀亀車はアベノアポロ前を、鳴原車は新大阪を7時30分にそれぞれ出発。赤松SAで合流する。登山口に着くと駐車場はほぼ満車状態で2台分のスペースを見つけ駐車、マイクロバスも来ていた。



9:45 前日までの寒波で山の上部や北面に残雪があるかもと軽アイゼンを入れ出発。

いきなり階段の急登。尾根道になってもなお急登は続く。岩と木の根の混在する登りにくい道である程なく展望岩に着く。雪彦山の眺めがよい。雪彦山とはこのあたりの峰の総称で一般的には洞ヶ岳(大天井岳)の事を指すそうです。

先行のパーティ(17名と7名の2つのパーティ)に追いついたところで一息入れる。これが大きな間違いだった。十分に間をとって出発したのだが一寸進んだところで大渋滞を起こしている。イライラしながらしばらく待つ。小さな段差が鎖場となっていてここで停滞していたのだ。おかげで【出雲岩】着が予定より20分程遅れてしまった。ここで先のパーティとの間をとるため又休憩する。岩の基部を回り込んで上部に出るところで又立ち往生。又また停滞しているのである。



(出雲岩上部)

【視岩】【セリ岩】(メタボの人は通りにくい)【馬の背】と続く。

「キャア〜 こわあ〜い」Oさんのかわいい声。一瞬あたりの緊張が和らぐ。怖いと言いながらも彼女は構怖いのを楽しんでいる様でもある。



洞ヶ岳(大天井岳)には先のパーティと同時着で山頂は飽和状態であった。展望は良く明神岳が望める。岩上には役ノ行者と不動尊を安置した祠がある。どこに腰を下ろそうかと場所を探しているうち先の団体さんはどちらかへ下りて行ってくれた。食後、祠の前で撮影。

下山開始。すぐに鎖場の下降となる。「上級向」の鎖コースを避け「迂回路」コースをとるがこれもなかなかの悪路で、もしかして鎖コースの方が楽だったかと思うほど。Oさんはリーダーの紐付きとなる。慎重に下りやっとな鎖場は終りかと思うも束の間、次から次へと鎖やロープが出てくる。

途中で展望が開け地藏岳がバッチリ眺められる岩の上に立ちその壮観を目に収める。

その後も小さな鎖場をいくつか下りやっとな虹ヶ滝に着く。沢を渡るともう一般道となりヤレヤレ。30分程で駐車場に着く。

雪彦山は福岡の英彦山、新潟の弥彦山と並ぶ日本三彦山の一つで修験道の山である。今日はいい修業をさせて頂きました。皆さんはいかがでしたか?

帰路「雪彦温泉」で冷えた体と酷使した腕や足を温め、新大阪組とアベノ組とに分乗し、途中渋滞にあうもアベノ7:00、新大阪7:20着。

堀亀リーダー 鳴原さん 車の提供と往復の運転有難うございました。

【行動記録】

登山口 9 : 45——展望岩 9 : 57——出雲岩 10 : 56——セリ岩 11 : 27——馬の背 11 : 53——
大天井岳 12 : 03～12 : 45——虹ヶ滝 14 : 30——駐車場 15 : 10——温泉 15 : 45～16 : 40